

海外研修(韓国・江原道)視察

「鳥取県中小企業

青年中央会韓国産業視察団」

5月23日～5月25日の3日間、韓国・江原道において、奥森県会長を団長とする視察団による海外研修がおこなわれた。団員構成は団長外、鳥取県中小企業青年中央会から16名(西部7名・中部3名・東部6名)、鳥取県中小企業団体中央会より1名、鳥取県商工労働部及び総務部より3名の総勢21名により構成され、米子空港発にて江原道副知事表敬訪問後、引続き同庁内にて江原道有志企業8社との交流会が行われた。

江原商品展示館を視察見学。最終日南大門市場視察見学の日程であった。

鳥取県と江原道は平成6年11月「鳥取県と江原道の友好提携に関する協定書」締結以来、農業を中心に交流を展開。当会親会の鳥取県中小企業団体中央会においても、平成10年度より両道県の異業種グループの交流を推進している。

今回の視察でも、江原道有志企業と数々のテーマの下、熱の入った討議・交渉が展開され、将に実戦に即したこの度の訪問ではなかったであろうか。



聞いてごしない

Part 14

自分自身、最近特に思うことが、健康管理である。当方も40を過ぎたころよりめっきり酒が弱くなり(記憶が飛ぶことがしばしば)こんな時期、二ヶ月前から禁煙をはじめた。当方の禁煙のやり方は病院で処方箋を出してもらいニコチンシールを毎日貼るやり方である。

二ヶ月の間に何度かは「悪魔のささやき」が有り、それに耐える日々であった。おかげで、何とか今では他の人がタバコを吸っていても気にならないようになったのではあるがしかし、やっとの思いで禁煙を克服したかと思った矢先、腹がでてきて、ベルトの穴をまたひとつ緩めるようになるしまつ、今度はダイエットの試練が当方に課せられてしまったのである。

若いころは少々飲み過ぎや食べ過ぎても、ようたんぼやデブにはならなかったのに、やはりこれも歳のせいかな。

今日もまた夜な夜なウォーキングに精を出す中年男である。皆さんも健康に気をつけましょう。

ようたんぼ

編集後記

本年度も残りわずかになりました。次年度役員の皆様も決まり事業計画の検討にお忙しいと思います。

この時期緊張の糸がほぐれますが、各委員会を引っ張ってこられた委員の方々。年度替わりには、事業がいろいろあり委員会活動も忙しいと思いますが、残すところ一ヶ月知恵を絞ってがんばりましょう。

(飛行キの悪い中年ライダー)

What's IT? (第9回)

インターネットの普及によって、今や世界中の誰もが、自宅のリビングで横になりながら、世界中へアクセスできるようになりました。アクセス端末に小型のデジタルカメラを接続していれば、相手の顔を見ながら会話をすることも可能です。一昔前の「アナログ(と呼ばれてしまう)」時代には、およそ考えもつかなかった技術ですね。命がけでシルクロードを旅をした時代に比べ、世界はなんと狭くなったことでしょうか。そんな中、さらに世界を、いや、宇宙を狭くするような技術が提唱されています。

インターネットの標準化団体であるIETF(Internet Engineering Task Force)に先ごろ「惑星間インターネット」の提案がなされました。「太陽系一帯に標準通信インフラを張り巡らせ、惑星・衛星・宇宙探査機との通信を容易にするバックボーンを作るという構築案」です(ZDNN:5月25日)。現在、すでに地上テストまで始まっていると言われていて、早ければ2003年打ち上げ予定の米航空宇宙局(NASA)火星探査機で実地テストを行うということです。

インターネットの普及で世界が狭くなったと感じ入るのは、まだ早いのかも知れません。これから地球上だけではなく、宇宙へ向けてインターネットが広まって行くなると、壮大過ぎていまいち実感が湧きませんが、きっと、月にたどり着くだけで四苦八苦していた今の時代をシルクロードのような感覚で語られる時が来る事でしょう。何はともあれ、通信相手先である異性人の通信プロトコルがTCP/IPであることを、今のうちから祈っている次第です。

コピーをして名簿にお貼り下さい

(newカマーズ)

あおそのかずのり
青園和典 B型
三井生命保険相互会社 米子営業所長
生命保険・損害保険業
〒683-0052 米子市博労町4-358-6
TEL 34-2518 FAX 23-0484
(KT) (EM)
H13.05入会
(推薦者) 釜田(公) 米子市百福原3-5-45YNT第2マンション412号
安部(利) 〒683-0805 S.42.7.22 TEL 38-3137

(コメント)
中央会に入会し、自身の人間成長につながればと思っております。御指導の程、宜しく申し上げます。又、中央会共済担当として、皆様のお役に立てる様、努めて参りますので、何卒、御支援下さいませ、お願い申し上げます。

6月例会案内

とき 平成13年6月20日(水) 17:30~
ところ サンルート米子
内容 委員会活動報告
担当 総務委員会

6月役員会報告

6月定例役員会が平成13年6月1日(金)、米子食品会館にて開催された。当日の主な議題は、次の通りです。

- 議題 ①委員会報告書作成の件
- ②名簿作成の件
- ③収支見込みの件
- ④6月例会、7月役員会、総会開催の件
- ⑤その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

「英知を養う」「フィロソフィア」

2001.6
No.164

Handsomeness

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 土井一朗 編集責任者 浜 義徳 印刷所 東京印刷社

平成13年度理事・監事、県出向役員推薦決定!

久古 雅彦

伊藤 玉一

湯原 俊二

理事

平成13年度5月16日(水)、境港シンフォニーガーデンで行われた臨時総会にて次年度理事・監事の承認、県出向役員の推薦の件が審議された。

岩田次年度会長から「新しい世紀のスタートに一致団結会員をリードしてゆける方々」と推薦の弁があった。議長に選任された北野副会長のすみやかな議事進行のもと同議案は満場一致にて承認された。

岩崎 康朗

若槻 聡

潮 邦昭

高田 孝志

桶村 清子

県出向理事

釜田 公文

夏山 裕一

夏野 慎介

門脇 浩二

県出向監事

堀田 収

山本 良文

市位 清明

監事

6月例会報告

平成13年5月16日(水) 境港シンフォニーガーデンに於いて、総務委員会担当の5月例会が開催された。

今回の例会は土井会長の挨拶の後、臨時総会を間に挟み、総務、広報、newカマーズのそれぞれの委員長による1年間のまとめ、メインのトライアスロン検討会発表会、と、2時間少々の中に、青年中央会の活動がぎっしり詰まった内容だった。

トライアスロン検討会発表会は、来賓に石尾実行委員長、松岡競技委員長、木山OB、高木広報部長をお迎えし、トライアスロンボランティアの啓発を目的に開催された。(トライアスロン検討委員会については、関連記事—Handsome 4月号)

会場が暗転した後、メインスクリーンに20回大会の映像が映し出され、場内に夏の感動が甦ったかと思わせる演出の中、堀田検討会委員長が、青年中央会とトライアスロン、そして、トライアスロンの歴史を勉強し直し、会員一人一人が、何を、何を考えたらよいのか、中長期的視野で考えていきたい、そんな良い機会になればと主旨を述べられた。

来賓紹介のあと、木山OBから青年中央会の関わった歴史を説明して頂いた。そもそも皆生トライアスロンは、皆生温泉60周年事業として、オイルショック後の元気づけのため開催したこと、5回大会のころから青年中央会への依頼があり、選手数の3倍から4倍以上の人がこの地に来ることによる経済効果は大きい、経済団体である180名を有するこの団体は、加勢すべきと判断されたこと、正式に中央会として担当したのは、東亜青果エイド(現在の河端エイド)であったこと、その後、

毎回の感動を味わい競技により近い立場に入っていたことなど、当時は、会員数の割に参加者は少なくとも運営できたが、学生ボランティアの減少等で、今は大変厳しい、ぜひ団結して多くの会員に感激をあげてほしいと話を締められた。

石尾実行委員長は、青年中央会が参加するようになったころから、組織もしっかりしたものになってきた。皆生大会は、日本最初のパイオニアとして、子供がこれを見て育てば、キレイにすることのない様になるのではないかと、また、高校時代にこの感動を味わったひとは、今現在、大人になっても人を助けてあげることの出来るこの大会が好きだという、そういった教育の場としても、ここにしかないゴールの瞬間を大切にしたいと強く話された。

前大会ボランティア部長をされた南会員は、大役がゆえに感動も大きかった、皆さんもぜひ一歩踏み込んで参加してほしい、必ず新たな発見、新たな感動があるはず。そして、エイドステーションの皆さんもゴールシーンを見に来てほしい、必ず感動すると訴えられた。松岡競技委員長からは、このコースは、本土では数少ない一般道を利用したコースで、やめてしまえば、また開催するのは困難、ずっと続けていきたい、協力してほしいとのお願いもあった。

最後に、土井会長より、決意文として

- 1.われわれ西部青年中央会は、鳥取県の活性化と全国の貴重なスポーツイベントとして全日本皆生大会の意義は大きいと思います。
 - 2.社会のモラルの低下や、教育のこうはいを、解決すべき21世紀のスタートとし、今こそ、ボランティア活動の汗と、涙と感動のすばらしさが地域づくりに必要と考えます。よって、今年度、青年中央会は、全員参加で総力を挙げて、大会の成功をめざし運営に協力することをここに決意します。
- と、読み上げられ、場内全員意を一つにして、閉会となった。

第21回大会 7月29日開催



5月委員会報告

実学委員会

平成13年5月12日(土) 於：ホールサムイン皆生 出席者/9名
中ノ森寿昭氏(山陰合同銀行 津山支店 次長)を講師にお迎えし、「融資をしたくなる経営」と題してご講演いただいた。

銀行が行員を指導して、ものの見方を規定するという事はありえない。個々人の歩んできた人生やパーソナリティが判断を規定しており、経営者や事業をどう見るかという基準は行員によって異なる。決算書や財務分析などという以前の判断規定を左右する経営とは、いったいどんなものであろうか。

- ・〈ヒト…経営者〉
 - ・どんなに社会的地位があり認められた人物でも、融資担当が魅力を感じ、信頼できる人でなければ融資は成立しない。情熱を持ち、約束が守れ、しっかりとコミュニケーションがとれる人物であることが重要である。
 - ・担当者との付き合い方も重要である。社員教育同様、担当者を教育するつもりで付き合い合うことも必要である。
- ・〈モノ…企業〉
 - ・モノを大切にし、設備や商品陳列等が整っており、あらゆる面で“キレイ”である企業は、往々にして儲かっている企業であり、担当者に期待感を持たせる。
 - ・受付嬢の対応がしっかりとおり、約束がその日のうちにトップに伝わっているような企業は担当者にとっては非常に魅力的である。
- ・〈カネ…資金運用〉
 - ・伸びる企業は経営者が数字に対して明るい。逆に経営者が数字に疎い企業は将来性を感じない。
 - ・活きた資金運用をできる企業であることが重要である。
- ・〈情報…友人〉
 - ・販売先や仕入先・経営パートナー等、経営者や企業の付き合い相手も重要である。経営者が危ない企業と取引している企業は共倒れになる危険性がある。
 - ・情報量は行動範囲によって規定されている。アクティブな経営者は魅力的であり、持っている情報も質・量とも豊富である。

政治・地域ビジョン委員会

平成13年5月8日(火) 於：ホールサムイン皆生 出席者/14名
6月まとめ発表例会打ち合わせ
最終決定テーマ「よなご〜ソウル定期就航便開設に共なる現状と課題」

発表形式：定期就航便開設前/開設後として、開設前の課題がどのように開設後変化しているのか、そして今後、当地域のビジョンを定期就航便の更なる課題点も踏まえて提言する。

6月まとめ委員会は、ソウル市実態調査研修会に決定!

総務委員会

平成13年5月8日(火) 於：ホールサムイン皆生 出席者/12名
・5/16(水)に行われる担当例会の事前打ち合わせを行った。
当日のタイムスケジュールに沿って17:00~20:00、21:00~二次会について検討・確認を行った。
・4月レクリエーション例会について皆で良かった点、悪かった点を話しあった。収支報告も行われた。
・6月例会における総務の担当を皆に報告(委員長、伊藤会員より) 具体的な話については次回委員会。

広報委員会

平成13年5月2日(水) 於：米子食品会館 出席者/13名
6月例会の役割分担(発表会)
・当日までの準備風景を撮る。各委員会を2名ずつで担当し撮影
・各委員会の台本作成。
・ビデオ撮り当日。影山氏担当
・リハーサル風景ビデオ撮り。5班に分けて行う。

情報メディア委員会

平成13年5月9日(水) 於：米子中央食品館2F会議室 出席者/11名
今回は6月例会での発表のテーマの最終決定として「協業サイト・インターネット環境・行政への提言」に決まった。6月例会進行表を基に発表形式を決め次回委員会までに完全な形で発表できるように、構成上の疑問点等について話しあった。

その中で、委員会発表の中核となる協業サイトについて長谷川会員から再度講義をしてもらい各会員の理解を深めると共に疑問に思ったことや更に使いやすくするための提案などを各会員同士で話し合い、引き続き各会員レベルでの普及活動を行う事の重要性を再確認した。

志委員会

平成13年5月14日(月) 於：ホールサムイン皆生 出席者/8名
門脇副会長より「実質的には5月の委員会活動が最後の月になります。真の経営者団体として、一緒に勉強していけるのもあと1ヶ月。少ない日数ですが気を緩めず最後を締めくくりましょう。」「また、中央会は他の団体と比較して、独自の路線とスタイルを持っています、頑張りましょう」との挨拶の後、釜田委員長の役員会報告、本日の討議事項と進んだ。

- ・〈討議事項〉
- ・(1) 6月発表会準備
 - ①シナリオは志委員会オリジナルで進めていく。担当部分について、時間配分と原稿の内容を調整し詰めていく(宿題)。
 - ・島山が編集
- ・(2) できるだけ、委員会全員で関わられるようにしていく方針
- ・(3) 役割分担の確認
 - ・出演パネリスト：門脇、釜田、岩田(戦争)、桑垣(教育)、浜田(経営)、島山(歴史)
 - ・シナリオ：島山
 - ・小道具作成：植田(写真)、高橋(フリップ)、林、中原
- ・(4) 5月28日(月)日本海情報ビジネスにて原稿打合せ委員会開催 18:30~
- ・(2) トライアスロンボランティア団体・個人説明会
 - 委員会から応援2名
 - 市位、桑垣会員(団体・個人のどちらに出席かは、2名で相談)

newカマーズ委員会

平成13年5月9日(水) 於：米子食品会館 出席者/22名
1) 中央会研修プログラム作成についての検討が行われた。パワーポイントでのプレゼンテーションを検討したと共に各項目担当を決定した。
2) 6月例会の各役割を決め、その内容を各自確認した。
3) ニューカマーズ委員会の研修会を福山市に決定し、皆で楽しい研修会になる様に検討した。
4) 青園新入会員より、入会の挨拶
5) 北野副会長より、入会当時の話があり、新入会員の啓発を促し、会員全員で感動した。

21地球委員会

平成13年5月9日(水) 於：米子食品会館 出席者/11名
今回の委員会は、6月発表会の打ち合わせに終了した。委員会報告書を資料に過去の活動を振り返りながら、どのテーマにスポットをあてるか、またどう切り口から結論まで持っていくのかを参加者全員で話し合った。その結果、身近で理解しやすい国立公園大山に絞って環境と教育の両側面から委員会として経験したことや感じたことを盛り込んで「自らの言葉」で語ろう、ということで落ち着いた。発表会当日は近岡委員長と書記の後藤会員の対談形式で進行することになった。

『我が大将、大いに語る』

—日本海新聞25周年特集号—

会員諸兄はご覧になったであろうか?去る5月1日発行の日本海新聞に同紙の発刊25周年記念座談会が掲載された。題して「鳥取県の可能性次世代の人々に託して」—出席者は3名で学識経験者として鳥取乾燥センター長の稲永忍氏、女性酪農家の小谷鈴子氏、そして若手経済人代表として我が土井会長が出席、2面にわたっておおいにその展望を語った。

前半は会の使命、活動内容について披露し、後半は21世紀を迎え鳥取県が新たな飛躍をするためにどう取り組むべきかについて述べている。鳥取県には民間の雇用が少なく優秀な人材が公務員に偏りすぎている。行政の事務処理を省力化し教育など重要な部分に人材を投入し、その他は民間で活躍すべきだ。それが景気の活性化につながる。また、教育も目先のことや周りの雰囲気流されない「人として正しい判断」ができる人間を育てる教育をしてほしい、と熱弁を振った。

自ら志と実学を実践してきた土井会長のポリシーが行間にはじみ出ている。我々会員一同も21世紀の会と所属企業の活動の道しるべとなる発言であった。土井会長お疲れ様でした。

